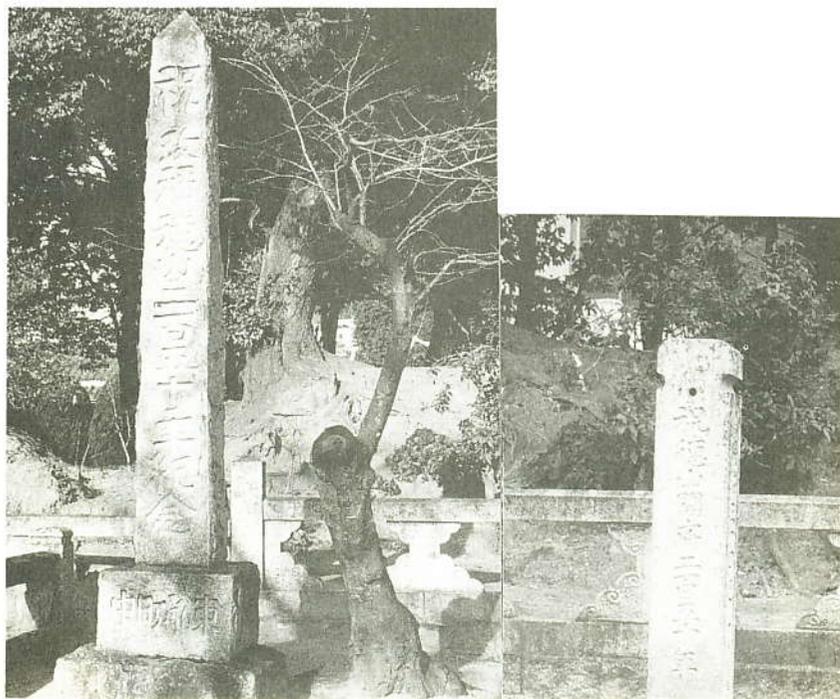


祝徳山開府二百五十年碑 祝改称二百五十年記念碑

徳山初代藩主就隆が、慶安3年（1650年）下松より野上に館を移し、野上を徳山と改称してからの発展は、めざましいものがあった。

これを祝福し今後の発展を祈念して、改称から250年後の明治34年に、東船町中と東浜崎町中の有志が建立したと彫ってある。このときの祝いは、徳山旧市内は勿論、福川・富田・下松などより芝居・しゃぎり・山車などを繰り出し、昼夜花火を打ち上げてにぎわった。



飯田忠彦旌功之碑

飯田忠彦は、寛政10年（1798年）徳山藩士生田十蔵の二男として二番丁で生まれた勤王の志士である。江戸藩邸に勤務し、飯田氏の養子となり、大日本史にも比すべき大著「野史」の刊行を30有余年の長い年月を費やして達成した。

しかし、安政年間に尊王攘夷の急先鋒と思われ、拘置されたことに憤慨して割腹自殺した。時に63歳であった。

この碑は大正2年に氏の功績をたたえ、勢屯の大野直輔氏・今宿の金子正炳氏らが尽力され、有志の協力によって徳山公園内に建てられた。いまま動物園中央の「ひょうたん池」の所に、もとのまま建っている。